E 16

江戸時代中，後期の住まいについての研究
ー家相の文献を通してー（第五報）

東京家政学院大学　　村田あが

目的　昨年度の本研究第４報に続き，江戸時代中，後期の家相の文献を通して当時の住まいのあり方や，住まいの作られ方，捉えられ方を探る．本年度は『家相図解』，『家相図解全書』，『家相秘伝集』の３文献中の家相判断による吉・凶の表現を分析することによりこの時代の人々が住まい作りを通して希求，または忌避していたことを明らかにする．

方法　東京家政学院大学図書館大江文庫所蔵の江戸時代の住まいに関する文献のうち，『家相図解』松浦東鶏（久信）著　寛政10年（1798）刊，『家相図解全書』長田藁雀著　文化元年（1804）序，『家相秘伝集』松浦琴鶴（純逸）著　天保11年（1840）序，同刊の３文献の吉相・凶相判断の表現を分析し，当時流行した民間信仰のひとつである願掛けの習俗についての文献である『願懸重宝記』近松歌国著　文化13年（1816）刊に見る願掛けの内容との比較検討をする．

結果　上記の家相３文献では，吉相の表現29項目，凶相の表現33項目を文中から抽出し，それぞれ集計したところ吉相の表現 240例に対し凶相の表現は 483例となった．吉相の表現では「長久繁栄」「子孫繁栄」や「財福を招く」「家業繁栄」「幸慶，富貴」が多く，次いで「壮んになる」「功名を得る」「長寿」「無病」が見られる．凶相では「禍あり」「疾病」が最も多く次いで「散財」「実子相続に障る」「産業衰微」があげられる．願掛けの内容は「病気平癒」が特に多く個人に関する祈願が特徴である．江戸時代の民間信仰は中期以降に信仰圏を拡大し盛んになるが，家相文献の流布も同時期であり（今回は近畿地方に限ったが）当時の士農工商の四民が住まい作りに希求したものや，家相文献の著者が方位と禁忌の問題を平易な表現を使って説明したことなどが明らかになった．